

全国の感染者 8週ぶり増加

厚生労働省に新型コロナウイルス対策を助言する専門家組織は20日、全国の1週間の感染者数が8週間ぶりに増加に転じたと報告した。19日までの感染者数は前週比1・35倍で、沖縄を除く46都道府県で増えた。1週間前時点では前週比で感染者数が増えた都道府県はゼロだったが、状況が一変した。前週比が最も高いのは和歌山県で1・75倍。北海道が1・60倍、香川県が1・60倍、山形県が1・56倍と続く。東京都は1・25倍、大阪府は1・40倍だった。

座長の脇田隆字・国立感染症研究所長は、旅行や訪日外国人の増加、感染やワクチンで得た免疫の低下、気温の低下などの影響を指摘しつつ、「本当の増加傾向が見極める必要がある」と話した。

会合では海外の流行状況に対する警戒感も示された。コロナが流行しやすい冬が近づき、欧州で感染者数が増えているためだ。

専門家会合 海外では新たな変異株広がる

世界保健機関(W.H.O.)によると、英国では1週間の新規感染者数が9月頭に約2万8千人だったが、10月頭には約6万6千人と約2・4倍に増加。ドイツは約20万3千人から58万5千人で約2・9倍、フランスは約11万3千人から約38万4千人で約3・4倍だ。

懸念されるのが新たな変異株だ。日本ではオミクロン株の一つ「BA.5」が主流のまま置き換わっていないが、海外では同じオミクロン株で、別に派生した系統が増え始めている。

英國では感染者のうち「B.E.1・1」が18%などで、B.A.5以外が4割近くを占めた。米国でも「BA.4・6」が12%で増加傾向だ。これらは感染力は未知数だが、いずれもワクチンが効きにくくなる可能性がある。

「コロナとの同時流行が懸念される季節性インフルエンザについては、国内ではまだ大きな流行は見られないとした。(市野塊)